



あゆみ

No. 165

令和 4年 3月30日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 茶山寮・第二茶山寮
 〒863-0006 熊本県天草市本町下河内680
 TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090
 E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp
 社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>
 施設の旬の話題を「**レイザンTOPIX**」にて更新中です。



皆で咲かそう 心に満開の えがみの花



「もう一步の関わりを」

施設長 飽田 一夫

この原稿を書いている三月中旬、ウクライナの戦争の行方は決して樂觀できない状況です。このあゆみが発行される頃少しでも好転していることを祈ります。何の罪もない、抵抗もできない人達の命が一つでも救われますように。

さて、茶山寮・第二茶山寮の今年度の目標は「もう一步の関わりを」にしました。令和元年から三年間、毎年一つずつ改善目標を挙げて取り組んできました。

一年目は歩行について、二年目は食について、そして三年目の昨年度は排泄についてです。具体的な目標だったので取り組み易さも一定の成果を上げてきました。支援のスキルも向上しました。今年度は具体的な目標は挙げず「もう一步の関わりを」という抽象的な目標を職員がどう捉え実践してくれるのかを見ていきたいと考えています。

支援に「もういい」という終わりはありません。例えば着衣支援の場面で、タンスの中の服を着せる、または着るのを

介助するだけでなく、いくつかの服を提示して好きな方を選んで貰う、今日の天気を説明してそれに合う服と一緒に選んでみる、どちらが前か聞いてみる、下着や上着のほつれや修繕箇所がないか確認する、襟を出したりボタンをはめたりする練習を繰り返す、ちゃんと着れたときはしっかりと誉める等、考えたら沢山の支援が考えられます。そのような丁寧な支援を繰り返すことが、利用者の生活の質の向上に繋がっていきます。また、情緒不安定な利用者に対してどのような声掛けや接し方が良いのか、一人で考え込まず複数の職員で意見を出し合い実際に試してみながら、より良い方法を模索していく。特に声のかけ方、どんな言葉を使うかは非常に重要で、工夫してもまだまだ先があるような気がします。

それを面倒くさいと思ったらそこで終わりますが、幸いなことにそれを面白いと思ってくれる職員がここには沢山います。皆で力を合わせて令和四年度も進んでいきたいと思えます。

サービスの現場より

『令和四年度の虐待防止の取り組み』

副施設長 鮎田 逸子



障害者虐待防止のために令和四年度から①虐待防止の研修の実施②虐待防止委員会の設置③虐待防止責任者の設置④身体拘束適正化の指針の整備⑤身体拘束適正化のための研修の実施⑥身体拘束適正化委員会の設置が義務付けられました。芥山寮・第二芥山寮では①から④まではすでに何年も前から実施または設置しています。⑤については年二回行っている人権研修(虐待防止研修)の中に組み込んで行っています。⑥は虐待防止委員会がそれを兼ねることとします。さらに一歩進んで今年度は「一人ひとりの意思を尊重しよう」という虐待防止目標を決め、各セクション、各職員がそれに沿って具体的な行動目標を立て支援を行うことにしました。また、年度末にはその検証を行います。しかし、どんな優れた制度や目標も運用するのは人です。最も大切なのは「これらの仕組みや目標を絵に描いた餅にしないぞ!」という職員全員の強い自覚であることは明らかです。それがあれば目標は必ず実現すると信じています。信じていることが実現への第一歩からです。

『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援副主任 坂井 里美



Sさんは音楽が大好きで、笑顔が素敵などでも明るい方です。普段はリクライニング車椅子にて、静かに過ごされている事が多いのですが、支援時や食事の際には、笑い声や活気ある声が聞かれます。昨年、体調不良により食事がなかなか摂取出来ない等心配な状況が続いた為、医師や看護師、管理栄養士と連携を図りながら食事の内容を変更する等、少しでも摂取出来るように支援をしてきました。徐々に回復され現在は体調不良も見られず、食事についても毎食笑顔で全量摂取されています。会話でのコミュニケーションは困難ですが、日々身体に触れながら積極的に関わりを持つように努めています。大好きな童謡を歌うと一緒にリズム良く歌われ、称賛の声掛けに「アー」と嬉しそうな表情をされます。時に職員をかからかうような仕草も見られ、楽しそうに笑う姿に周りも自然と笑顔になります。

高齢になられた為、身体に負担を掛けないよう健康面については特に配慮が必要ですが、今後も関わりを大切に、一緒に笑い合う事で楽しく穏やかな施設生活を過ごしてもらえようように努めていきたいと思います。

『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援員 沢村 仁美



私が担当させて頂いているYさんは、一つ一つの細かい事を丁寧に行うことを好まれる方です。若い頃のことを思い出しながらお話しされる事が多く傾聴を心掛けてました。お話しされる時の表情がすごく楽しそうに穏やかである事から、Yさんに昔行ってきた事で何かしたいことはないですかと伺ってみました。Yさんは毎日梅干しを食される事から自分で作った梅干しだったらすぐ喜んで食べられる事だろうと考え、梅干し作りを提案して取り組むことにしました。何が必要なのか準備する物を本や携帯で調べて一緒に考え購入する物を決めました。梅を洗ってヘタを取る細かい作業も黙々と且つ一つ一つ丁寧に作業に取り組み姿には感心しております。次の工程の説明を行う事で役割として捉え、充実した毎日を過ごされています。梅の塩漬けの工程では毎日眺めては「まだ、水はあがらんかな」と意欲的に尋ねてこられます。外に梅干しを干している時も気になるようで様子を見に行っておられました。梅干しができあがり美味しそうに毎日頂いております。今後もYさんの特性を活かしながら、楽しんで施設生活が送れるように支援させて頂きたいと思えます。

『日中活動の見直しについて（芥山寮）』

支援副主任 鮎田 祐介



利用者の生活の質を向上させるために、日中活動の見直しを副主任メンバーが中心となり行いました。

まずは時間や設備等の縛りを無くして自由な発想で意見を出し合い、その中から利用者のニーズに添って内容や実施時の課題を検討しましたが、毎日全ての利用者を対象とした活動を提供するとサービスの質が低下するとの考えに至りました。そこで、利用者の状態に合わせて二グループに分け、それぞれのグループのニーズに合わせて曜日ごとに活動を提供し充実を図る事にしました。清掃等は午後の時間に変更し、午前中は集中して活動が出来る環境を整えました。活動時間等の変更で利用者が戸惑う事が予測されたので、利用者や職員が活動内容や病院受診のタイムスケジュールが視覚から理解出来るよう写真付きの日程表を作成し、「毎日利用者朝礼で説明しています。このことで「今日は多目的ホールで活動よ」と利用者同士で教え合う姿も見られ、活動意欲の向上にも繋がっています。令和四年度に向けて試行期間中ですが、充実した活動を継続していき「今日は椎茸を採った、明日も採る」と利用者の皆さんが自分を取り組んでいる活動を表現出来るように全利用者、全職員で協力して作り上げていきたいです。



『日中活動の見直しについて（第二芥山寮）』

支援副主任 柴田 玉子



日中活動において、高齢の方も増えたこともあり、利用者全員で同じ活動をするのが難しくな

っているのが現状です。それで私たちは、利用者の方々一人ひとりが充実した活動が出来る様にメンバーでアイデアを出し合い、計画を立てました。その結果、利用者さんの訓練にもなるように週に二、三回のペースで風船バレーや棒を使ったゲーム等を試行的に実施してみました。棒を使ったゲームは、隣の人が手から離れた棒が倒れるタイミングに合わせて掴む反応能力訓練の様なものです。上手く出来る方もいれば、最初はタイミングが合わず、苦戦される方もいました。皆さん一生懸命になって取り組んで下さいました。風船バレーも、飛んでくる風船をとらえようと、手足を使って一生懸命になって風船を追いかけていました。利用者の皆さんが同じように楽しんで貰う為には、個々に合ったやり方を工夫し、都度都度改善する必要があると感じました。これからも職員間でアイデアを出し合い改善を重ね、充実した活動をしていただける様、職員全員で協力して支援していきたいと思えます。



ひな祭り会

三月三日、今年も女子のお祭り「ひな祭り会」が開催されました。でも今回の主役は女性利用者さんだけではありません、勿論男性利用者さんも主役です。いつも仲良く家族のような利用者さんが、お内裏様とお雛様に扮し仲良く並んでレッドカーペットを歩かれました。記念撮影でカメラを向けられると自然と出る笑顔。ご家族の皆様には是非見て頂きたい一枚です。そして会の後は皆さん待ちに待ったひな祭り膳、手間のかかった料理に舌鼓を打たれていました。



きょうはたのしいひなまつり♪ 笑顔が素敵です！



令和三年度 さくらの会・合同歩行表彰式

三月二日にさくらの会・合同歩行表彰式を行いました。年に一回、生活や作業、合同歩行を頑張られた利用者の皆さんを表彰させていただきます。今年受賞できなかった利用者の皆さんも来年こそはと今から意気込んでいらっしゃいました。受賞された皆さんおめでとうございます！

【さくらの会】

苔山寮
たくみ班

- ・内古閑元雄さん
- ・山元 勝信さん
- ・山下 久美さん
- あすなろ班
- ・岡部 亮一さん
- ・稲田キヨ子さん
- ・安谷 紀子さん

【合同歩行】

苔山寮

男性の部

- 一 位 内古閑元雄さん (九六周)
 - 二 位 田副 朋也さん (九二周)
 - 三 位 今井 次男さん (八五周)
- 特別賞
- 松本 隆さん (六一周)
 - 谷口 智さん (五四周)

第二苔山寮

男性の部

- 一 位 松下 昇さん (九〇周)
 - 一 位 山本 直尋さん (九〇周)
 - 三 位 小嶋 稔宏さん (八三周)
- 特別賞
- 古川 秋男さん (六八周)
 - 村本 政春さん (三五周)

第二苔山寮

- ・祝原 和則さん
- ・里 信之さん
- ・中田 哲也さん
- ・堀切 雪吉さん
- ・松下 昇さん
- ・山田 健司さん
- ・山本 直尋さん
- ・植村史津子さん
- ・坂口 保代さん
- ・田村のぞみさん
- ・福田 緑さん
- ・松谷 恵子さん

女性の部

- 一 位 坂口美和子さん (九〇周)
 - 二 位 大塚 治代さん (五九周)
 - 三 位 小林 美保さん (五二周)
- 特別賞
- 園田 幸子さん (四一周)
 - 中村由佳里さん (三七周)

女性の部

- 一 位 脇中千賀子さん (七〇周)
 - 二 位 岩崎久美子さん (六九周)
 - 三 位 福田 緑さん (六八周)
- 特別賞
- 植村史津子さん (六〇周)
 - 坂口 保代さん (三五周)



【新職員紹介】
宮口 明美さん (苓山寮)



三月より勤務させて頂いています。毎日優しく声をかけてもらい感謝しています。一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひします。

【退職職員紹介】

岩崎 久美さん (第二苓山寮)

十二月三十一日付けで退職されました。



職員にも利用者にも笑顔で接して下さり、調理員としていつも美味しい食事を作って下さいました。今後の岩崎さんのご健勝とご活躍をお祈りしております。

【おみやみ】

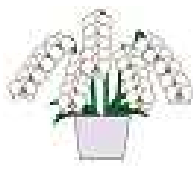
令和四年に入り、四名の利用者さんがお亡くなりになりました。どの方もとても長い間施設をご利用頂きました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

『苓山寮』

富丸 忠雄さん・龍野 哲郎さん

『第二苓山寮』

井手口秀彦さん・菅原 道正さん



【施設を助けて下さる業者さん紹介】

株式会社 優愛らいふ・ケア様

優愛らいふ・ケア様は苓山寮と第二苓山寮の利用者が使用するオムツや介護用具の注文販売、ベッドなどのレンタルも行っています。毎回たくさんの方の量ですが、注文したその日に持つて来て下さりとても助かっています。販売だけでなくベッドなどのレンタルも行っており必要な期間だけ利用者の方へ合った物を提供して頂いています。これからもご迷惑をお掛けするかとありますがよろしくお願ひします。



利用者さんの風景

立山るい子さん

私は一年間、立山さんの担当をさせて頂きました。立山さんは少し足が不自由な為、脚力が落ちない様、歩行に毎回参加して頂きました。担当が出勤時は、横について話し掛けながら歩く事を行って頂きました。担当がいけない時には後日「昨日は何周歩きましたか？」と尋ねるとピースサインをして「二回行ってきたよ」と笑顔で答えてくれます。外を歩く時はマンツーマンとなっていていますが、好みの男性職員と楽しく散歩しておられます。今後も元気に毎日を過ごして欲しいと思います。



岩崎久美子さん

岩崎さんは、毎日素敵な笑顔で皆さんと楽しく生活されています。リーダーシップもあり、毎朝朝礼でその日の活動内容の発表や、自治会の書記もされ皆さんの意見をまとめてくださいます。手先も器用で今年の色合いが素敵な帽子を編まれました。展示会にも出品され他の人の作品を見て「こんなものも作りたい」と益々の意欲を持たれ、今はバッグ作りに取り組んでいらつしやいます。毎月、貼り絵を下書きから一人で行われ、綺麗に作成され、ホールに展示されています。皆さんから「上手ですね」と沢山の褒め言葉をもらわれています。まだまだ沢山の事をチャレンジしていきたいとパワーが溢れる岩崎さんです。



＜お祝い＞

苓山寮の若山支援員に第二子の新(あらた)くんが誕生しました。おめでとうございませう。新くんの健やかな成長を願っております。



＜行事予定＞

(変更あり次第、ご連絡します)

四月

- 一日 辞令交付
- 六日 配置医来寮
- 十四日 健康診断(第二苓山寮)
- 十五日 健康診断(苓山寮・G)
- 十九日 H)
- 二七日 事業報告会議
- 二九日 第一回管内研修
- 潮干狩り

五月

- 十一日 配置医来寮
- 十八日 総合防災訓練
- 二七日 東向寺保育園交流会

＜編集後記＞

令和三年度を振り返ってみると、やはりコロナウイルスが一番に思い浮かびます。国内で初めて感染者が確認されて二年以上経ちますが、毎日感染者数が発表され気にする日々はいつになつたら終わるのでしょうか。一年前と同じ気持ちだったように思います。ご家族、利用者の皆さんには感染対策の為、外泊や外出が制限されご迷惑をお掛けしています。私達職員も施設にウイルスを持ち込まない為に遠出は控えるなど感染対策をして自由に生活は出来ていません。しかし今、戦争でもっと苦しんでいる方々の姿をニュースで見ると、平和に過ごさせている事だけでも幸せなんだと感じています。まだまだコロナ禍ではありますが、小さな事でも幸せに感じ、利用者の皆さんと一緒に笑って過ごせる時間を少しでも多く作れるように令和四年度もイベントなど計画していきます。